



森田 則子

小中学校の健康づくり

問 バス通学などによる体力低下が心配されるが、そのための体力向上の取り組みはしているのか。

答 体育科教諭の専科加配を受け、小中9年間の系統的な体力づくりに取り組んでいる。



問 「ゲーム障害」との病名が発表されるほど、スマホ・ゲームによる運動不足も懸念される。「学びの丘」を活用し、遊び場も含め、体力増進に活用してはどうか。

答 現在、小学校のマラソン大会のコースに活用している。その他にも活用できるように、学校とともに進めたい。

一、小中学生の健康を、増進しよう 二、障がい者等に寄りそう 心のバリアフリーを

問 大阪府は、がん死亡率が高いことから「がん対策基金」を設立。その活用は、中学生の専門医によるがん教育も、推進している。基金を利用し

答 薬物乱用、喫煙防止等の保健指導のカリキュラムの中で、がんについて学んでいるが、様々な形で専門の講師によるがん教育も検討したい。

問 公共施設での、駐車スペース、点字・手話案内など、障がい者等に対する合理的配慮は具体的にどうなっているのか。

心のバリアフリー推進

答 現庁舎でのこれ以上の対策は、難しい。

問 今後も合理的配慮に努めるが、新庁舎建設に際し十分配慮したい。



ヘルプマーク

問 昨年からの配布の「ヘルプマーク」の住民への周知の取り組みを問う。

答 普及啓発が、十分でないのが現状。今後、広報紙、ホームページ等で周知したい。

問 自助・互助・共助のまちづくり、心のバリアフリーの取り組みの一つが、ヘルプマークだと思うがどうか。

答 今後、普及すればいいが、マークを付けている方が配慮の必要な方という認識をしていくことや、マークが先行しないよう充実した対応をとるべきだと思う。

問 今後のまちづくりにおいて住民の力は欠かせないものと考えているが、認識を問う。

答 人口減少や超高齢化が進行する中で、ますます地域力が重要になってくると認識する。

問 生活支援など行っていく中で、住民の力も必要であり、住民が主体的に動ける体制をつくっていくのも行政の役目だと考えるが。

答 行政の役目だと考える。区長会や地区福祉委員会を通して体制づくりをお願いしている。

問 一般住民を交え、肩書き抜きで話し合える場にできないか。

答 箕面市の調査より10歳頃が学力格差の壁になるとあった。認識は。



伊木 真由子

まちづくり

問 今後のまちづくりにおいて住民の力は欠かせないものと考えているが、認識を問う。

答 子どもから大人へと変わる過程のなかで、身体的にも精神的にも変化が起こる時期でもある。学習内容でも抽象的な思考が必要になる。

問 子どもたちが生きる力を培うためには、確かな学力が必要である。10歳が1つの壁になるならそれまでに対応が必要ではないか。

答 乗り越えにくい状況の子どもたちへの対応策を立てており、継続して対応していく。

問 子どもの学力・生活習慣

一、まちづくり 二、子どもの学力・生活習慣

答 子どもから大人へと変わる過程のなかで、身体的にも精神的にも変化が起こる時期でもある。学習内容でも抽象的な思考が必要になる。

問 子どもたちが生きる力を培うためには、確かな学力が必要である。10歳が1つの壁になるならそれまでに対応が必要ではないか。

答 乗り越えにくい状況の子どもたちへの対応策を立てており、継続して対応していく。

子どもの学力・生活習慣

問 子どもの学力・生活習慣

答 乗り越えにくい状況の子どもたちへの対応策を立てており、継続して対応していく。

